

食味が良く、省力的栽培が可能な 新タイプのねぎ新品种「ふゆわらべ」

通常の根深ねぎ栽培では、葉鞘部(白い部分)を 30cm 以上確保するため、数回の土寄せ作業を行う必要があります。また、栽培期間も長くなるため、作業の省力化と期間の短縮が課題となっていました。一方、消費サイドからは、買い物袋や冷蔵庫に収納しやすく、少人数で消費しやすいコンパクトなねぎへのニーズも多くなっています。(独)農研機構野菜茶業研究所では、これらの課題に対応するため、短葉で肥大が速いことに加え、辛みが少なく食味に優れた新しいタイプのねぎ品種を育成しましたので、その概要について紹介いたします。

☆ 技術の概要

- 開発した品種「ふゆわらべ」(写真1)は、緑の部分(葉身)および白い部分(葉鞘)が短く太い独特の形状を持ち、辛みが少なくやわらかいため、葉身部まで美味しく食べられる新しいタイプのねぎ品種です。短葉の下仁田系品種と辛みが少なくやわらかい九条系品種が自然交雑した系統と根深ねぎ品種から選抜した比較的短葉の系統を交配、その後代から選抜を繰り返し育成されました。
- 「ふゆわらべ」の葉身部および葉鞘部は「下仁田」よりやや長くなりますが、一般的な根深ねぎ品種「元蔵」および短葉の「なべちゃん」より短くなります(表)。葉鞘径はこれらの品種より太く、高収量が期待できます。
- 「ふゆわらべ」は、ピルビン酸生成量(辛み程度の指標)や破断強度(硬さの指標)の比較からも明らかのように葉身部、葉鞘部とも辛みは少なく、やわらかいことが特徴です。
- 「ふゆわらべ」は葉鞘部が短いため、栽培期間を2ヶ月程度短縮でき、病虫害や気象災害を回避しやすい夏播き冬どり栽培が可能です。また、土寄せ作業を半減でき、作業の省力化にも役立ちます。



図 ふゆわらべ収穫物の形状
(右端は一般的な根深ねぎ品種)

表 「ふゆわらべ」の形態・収量特性、及び品質関連特性結果

品 種	形態・収量特性				品質関連特性			
	葉身長 (cm)	葉鞘長 (cm)	葉鞘径 (mm)	総収量 (kg/10a)	ピルビン酸生成量(μmol/ml)		破断強度(N)	
					葉 身	葉 鞘	葉 身	葉 鞘
ふゆわらべ	52.6	23.9	22.1	5,130	8.1	9.0	2.25	0.99
下仁田	48.4	19.4	20.9	3,464	14.0	20.4	—	—
なべちゃん	56.0	25.2	20.0	4,462	9.7	13.7	3.03	1.38
元蔵	62.6	31.5	18.9	4,915	11.2	11.7	3.21	1.51

注:破断強度は、5mm幅のカッター刃による破断時の応力を測定(—はデータ無し)

☆ 活用面での留意点

- 「ふゆわらべ」は、関東以南の温暖地における夏まき冬どり栽培に適しています。
- 「ふゆわらべ」は、本年6月に品種登録出願公表を済ませました。今後、農家やJAからの試作希望があれば利用許諾契約を締結した上で種子の実費提供をする予定です。
- 詳しいことは、(独)農研機構野菜茶業研究所野菜育種研究チーム(電話 059-268-4652)へお問い合わせください。

(日本政策公庫 農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 袴田勝弘)